'22. 8.27

私がその昔古老から聞いておる話では、明治初期にあっては、多くの家では西と北側又は北側をハチクの竹藪で囲い、他を土用竹の生垣を以て区ぎっていた。この様な姿は遠く藩政の昔からのものであって、弘岡でもそうであったようであるが、これは自然災害に対する永い経験に基づく智恵であっただろう。西を流れる仁淀川の洪水、氾濫、夏、秋の台風、冬期の烈風等より身や家を護るにはどうしても必要欠かせないものであったと思ふ。然し瓦葺の導入は屋敷の様式を一変し、又堤防の補強や衛生上のこと等も相待って、その必要性を失はせてしまった。然し大正末から昭和の初めにかけては未だ処々で残っていて、そこでは四季を通じてあらゆる鳥でにぎわい、殊に春には営巣も見られ人、鳥共存ののどかな自然もあったが、何時ともなく消えてしまって、今では一、二ヶ処に竹藪が残って、昔の面影の一端を見るのみである。

又土用竹の生垣にあっても、家屋の瓦葺への改築にあたって、納屋、倉庫等を境界上に迄建築することで無くなったり、或は土塀や板塀に替ることでその姿も減少し、僅かに残っていた竹垣も、大正末より昭和初期にかけてから普及し始めたセメント工事や第二次大戦後のセメントブロックによる塀にとって変られて殆んどその姿はなくなってしまった。

春野神社

数年に亘る多大の困難を克服して、承応元年（一六五二）八田堰及びそれに伴ふ井は漸く完成した。そして年月の経過と共に大きい恩恵として、凝元波及するに至った。それは日常の生活用水より交通運輸に迄に及び、殊に大きいのは、流域十ヶ村の荒地や畑地に至る迄美田と化し、受益面積は八百三十余町に及んだことであった。

永きに亘って苛酷な課役や其の他の負担に泣き怨嗟で過ごしたこれ等の村の人々の苦い思い出もこの現況の前には何時の間にか霧消し、兼山先生の偉大さ、先見の明及びこの偉業に心打たれ大いなる感謝と思慕えと変っていった。

然し先生は間もなく寛文三年（一六六三）八月失脚、九月香美郡中野に隠棲し、悲しいことに同年十二月十五日同所に急逝した。しかも藩は先生の多大の功績に対するに冤罪を以てし、その上に言語に絶する悲惨な罪の執行を遺族に迄加えるに至った。

これに対して住民達は大罪人と決定されている先生を公然と祭ることは許されないが、抑えんとしても抑えきれない報恩と哀悼の思いから祠を建て心から祭らうとし、寛文四年井流の上甫木山々頂の平坦地内に九代（一七八平方米）の宮床を定め、その中の厳上に祠を建て水神様と云ふ名目を以て祭祀し、毎年十ヶ村より新米を献してその思いを致したと云ふ。これより水神の平の地名生る。

明和八年（一七七一）井流の改修の行はれた際この山頂では参詣も意のままにならず、何かと不便であるとの理を以て開の下流約二百米すべり岩の南井筋東岸、旧伊野街道に近い小山の岩多い地に七十八坪（二五七平方米）を宮床とし、桁行二間（三、六米余）、梁間一間三尺（約二、八米）の社殿を造り、時の学者戸部良熙撰の祝詞を奉して移転の祭典を盛大に行ひ、これより春野明神と呼称した。春野とは堰構築設計の重要な一助をなした老婆の名と云ふ。この社は先生祭祀の最古の社であるので、山田町楠目の春野神社は文化三年（一八〇六）ここより勧請せられたものである。（皆山集及び伊藤猛吉先生八田堰功徳録より）

八田村にあってはヤハリ水神様と呼ばれ、「春野」の名は聞くことはなかった。八田を含む十ヶ村の建立になるが、村民は八幡宮はじめ他の村内各社と同様昔より尊崇した。毎年夏になれば、世話役である年長の子供等によって入手した絵をもって各家絵馬を作り、持ちよって各神社毎の宵祭りを祝ったが、水神様の祭には宮の馬場にて行はれた。翌日は柴餅をつくり、午后は仕事をやめて休息する家が多かったが、昭和四、五年頃迄はまだ行はれていたかのよう

'22. 8.27

に記憶している。

昭和三十年代に入ってと思ふが、終戦後より喧ましく指摘されていた堤防の補強工事が始まった。それは、戦時中仁淀川上流の伐木の乱伐と川床の上昇により台風時の洪水に対する応急対策でなかったかと思ふ。春野神社地を含むその山からトロッコによる採土が行はれ、神社は遂に移転を余儀なくされたが、私は移転先は知らなかった。

此度神社調査によりそれは八田堀の東端、開の上の鉄筋コンクリートの建物内に安置されているを知った。この建物は作業時以外は何人も不在にして施錠されているので、参入することは許されない。

時代の移り変りとわりきるには余りにもヤリキレないのは私一人だろうか。

今日のあらゆる産業、文明の発展は目を見はるものがある。それにつれて一方では数多くの古いものが次々とその価値を失ひ、或は消えてゆく。それは今後も尚一層続くことであろう。

然し水は例外である。水をおいて文化はなく産業の発展も期することはできないと云ふ。その重要さは益しこそすれ減ずることはない。従って井下各地に網の如く張り巡らされた井は決して荒廃することはなく、又消滅することもなく血管の如く大きな役割をもって一層働き続けるであろう。そして末永く計り知れない無上の財産となるであろうと思ふ。

これ等は皆、兼山先生や我等の先祖の語り尽くせない程の情熱、努力、労苦等の結晶によるものであるが、その膏と汗と涙と喜びの歴史を語っている春野神社の現状がこれでよいのかと切に思はれてならない。

22. 8. 27

八田村地図

墓地

東

南

西

北

明治二十年十二月三十日
製図人 石黒猛太郎
池清

水神平

烏打場

境谷
南境谷
南鳥越
鳥越
立岩山
唐谷山
鉢巻
大田尾北平
大田尾南平
ナロ其四
ナロ其五
ナロ其二
ナロ其三
弘明谷
石ケ森
大体場
鍛ケ平
金三郎谷
神田谷
神田森
八重場森
徳谷
切畑
鍋倉
天王山
四元王谷
門屋
西門屋
一万ケ浦
四ケ峯
小谷口
神楽田
松木
符ノ岬
北浦
上正木
安成
五反田
笹尾
大年田
草ケ森
小谷
ツボミ
オビキ岩
笹尾森
光ケ谷
南光谷
堂ケ森
光ケ森
南崎
北南崎
水神平
亀ケ谷
ヤツナミ
大谷
イダニノ森
大谷山
梅木ノ森
梅木
永末
原木谷
原木山
正木
上ムシ
下ムシ
森ノ木
坊寺田
坊寺山
岩滝
岩滝向
伊豆端
後ノ谷
萩尾
西萩尾
鎌切
萩ケ谷
南萩ケ谷
切ケ
永畝
ユガミマツ
太神
ミノコシ
白瀧
観音山
観音平
鳴谷
中ノ坪
竹添新田
中山
若田
櫛本
回則ノ森
回則
小妻
流田
松橋
渡ノ本
門田
中筋
古家内
キシ山
王子谷
堂
内舞
西内
大門
安正
出居
馬場新
馬場東
馬場西
古川
並松
山崎
並利
伊豆端
鳥打場
鳥打場
牛川原
入江山
茶エガ芝
オシヨブシ
前木原
長畑
開山
西尾
江尾